

炊き出しボランティア通信 vol 53 2011,10月

炊きだし 10月8日(土) 9:00 五橋公園に集合・ 準備 12:00 炊き出し

とてもよいお天気。この日は教会が使えない日にあたり、今回は公園に集合しそこですべての準備をしました。外で活動するにはとてもいい日和です。公園に集まった方は54人でした。本校からは9人のボランティア同好会1年生が参加して正平協の方たちのお世話になりました。うち3人は夏ボラで一度経験しています。皆よく働きました。



何かからしたらいいのかな？



準備、OK

○ ホームレスの炊き出しボランティアは今回が初めてだったんですが、自分から行動できたし、みんなで協力して仕事をするのができたのでよかったと思います。それと、思ったのよりもホームレスの方々がたくさん来てくれ、私たちにも気軽に明るく声をかけてくれ

たのでうれしかったです。(1年)



ただいま打合せ中です。



セット品です。Mですか？Lですか？

○初めてホームレスの炊き出しに参加しました。最初は何していいのかわからなくてボーツとしていたら指示されました。今度は指示される前に自分から仕事を見つけ、動きたいと思えます。それから、私はホームレスは「汚い」とか「怖い」とかいうイメージがありました。全然そんなことはなく、イメージが変わりました。参加してよかったと思えました。次回は今回より頑張りたいです。(1年)

○今回のボランティアに参加して、ホームレスの方の印象が変わりました。たくさんの方に来ていただいて、喜んでいただけたので良かったです。(1年)



今日はあんかけどんぶりご飯です。たくさん召し上がれ。



どのズボンですか？



これどうですか？

〇はくさいをうまく切れてよかったです。ホームレスの人が案外おもしろかったです。つく

ったものが「おいしい」って言われたときはすごくうれしかったです。次回も頑張る。(1年)

○今回は前回やらなかった服や食べものの配布をやらせていただきました。また違った経験になったのでよかったなと思います。反省点はまだまだ積極的にできなかったのも、学べなかった部分があったと思いました。次回はそのことを活かします。(1年)



頑張った人は、こんな顔～。

夜回り 10月5日(水) 雨 20:20～21:10

傘を差して、今夜は一人で回る。人手不足の折、訪問相手の少ない区域なので当然といえる。相方への気遣い不要なので気楽でもある。「こんばんは、正平協です。炊き出しの案内です。」国際センターの裏ベンチはめずらしく二人でおやすみだった。それぞれのベンチでビニールをすっぽり被って傘をわきに立てかけて寝ていた。用意してきたセット品が足りない。表側のベンチをのぞいたら、人影なし。車に戻ってカップめん・おむすびパック・ゆで卵・煮栗・炊き出し案内の追加セット品をつくって、裏へ届けに戻った。「こんばんは、追加です。おやすみなさい。」ぬれたベンチ。二人の人が身動きせずに寝ていた。

西公園陸橋下ハウスのOさん。今は住まいの痕跡もない。すっかり片付けられた。月に一度、こんばんは一と言うと、間を置いてニヤツとしながらビニールのドアから出てくるその顔ももはやないが、今夜のような肌寒い晩に「清流ホーム」で温まっていることを思った。それはやはり、公園にいるよりもよっぽどいい。

大橋下のKさんもない。あの人も会うといつもひょうひょうとしていた。自分の「宝の(ゴミ)山」を追い払われてからの現在、人から聞いた東北大北門そばという今の居場所を一瞬思ったが、仙台生活16年で不精から未だ地図不案内で尚かつ方向音痴の自分は、迷って終わりというのが予測つく故寄ってみるなどやめた。

公園大木下ベンチのSおじいさんも行ってみると不在で空振りだった。見ると石と思っていたベンチは石ではなくて、荷物の上に板が置かれていた。下にはカセットコンロに鍋類がコンパクトにしまっている。雨なのでどこかへ避難したかと思われた。ベンチは大木に包まれているので今夜程度の雨なら濡れることもない。その大木を見上げて立派だなあと改めて

感心したり、電灯の灯りでけむる公園内をしばらくぼんやりと眺めてから帰った。お元気がどうか確かめられないので、心にぽっかり穴が空いたままになる。さみしい感じが残った。

大橋下のKさんも陸橋下ハウスのOさんも大木下ベンチのSさんも、人間関係を絶って一人で生きていた。それは、社会生活からリタイアしたと見なされている。しかし、本人たちに悲壮感はない。いわば現代における「原始の生活」を楽しんでいるかのように見える。3, 1 1の震災が来た時刻にちょうどティータイムだったOさんは、それが邪魔されたのを悔しがっていた。Kさんを訪れると、ゴミの宝の山の中でいつも楽しんで見えた。Sおじいさんは、カセットボンベのことをしきりと気にしながら、いつもニコニコしていた。

それらを見ると、リタイアされたのはむしろ世間・社会の方で、本人たちは「人間原初の自由で自然の生活」に戻って悠々と生きているという気がしなくもない。当たり前のように毎日を人間関係の中でもがきながら生きている私たちが、むしろ不自由な人間にさえ見えてくる。人間らしさとは何だろう。人としての幸せとはなんだろう。人間らしいとは、ある意味窮屈で不自由なことだろう。幸せは不自由なことだ。さすれば、夜回りで出会う人たちの自由は、解き放たれた、しかしさみしく孤独な自由にちがいない。

文責 高橋 寛

2011/10/18 (Tue) 13:13